

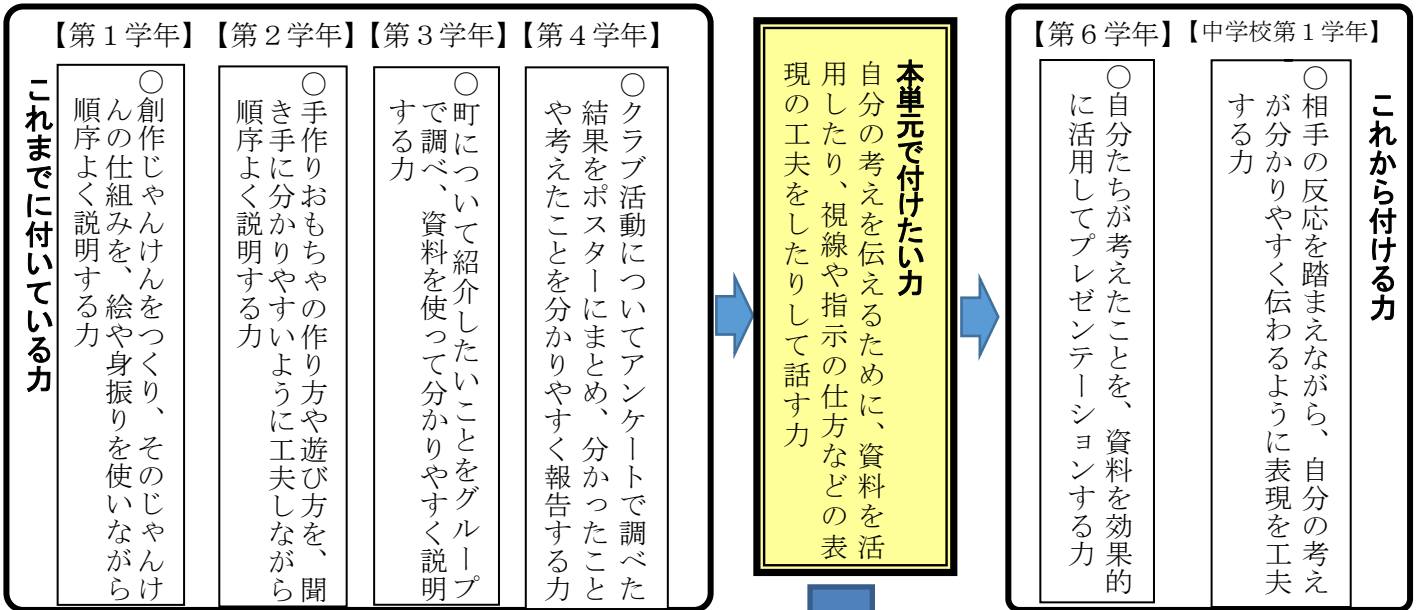
第5学年 国語科学習指導案

授業者：清田 尚吾（5年1組）

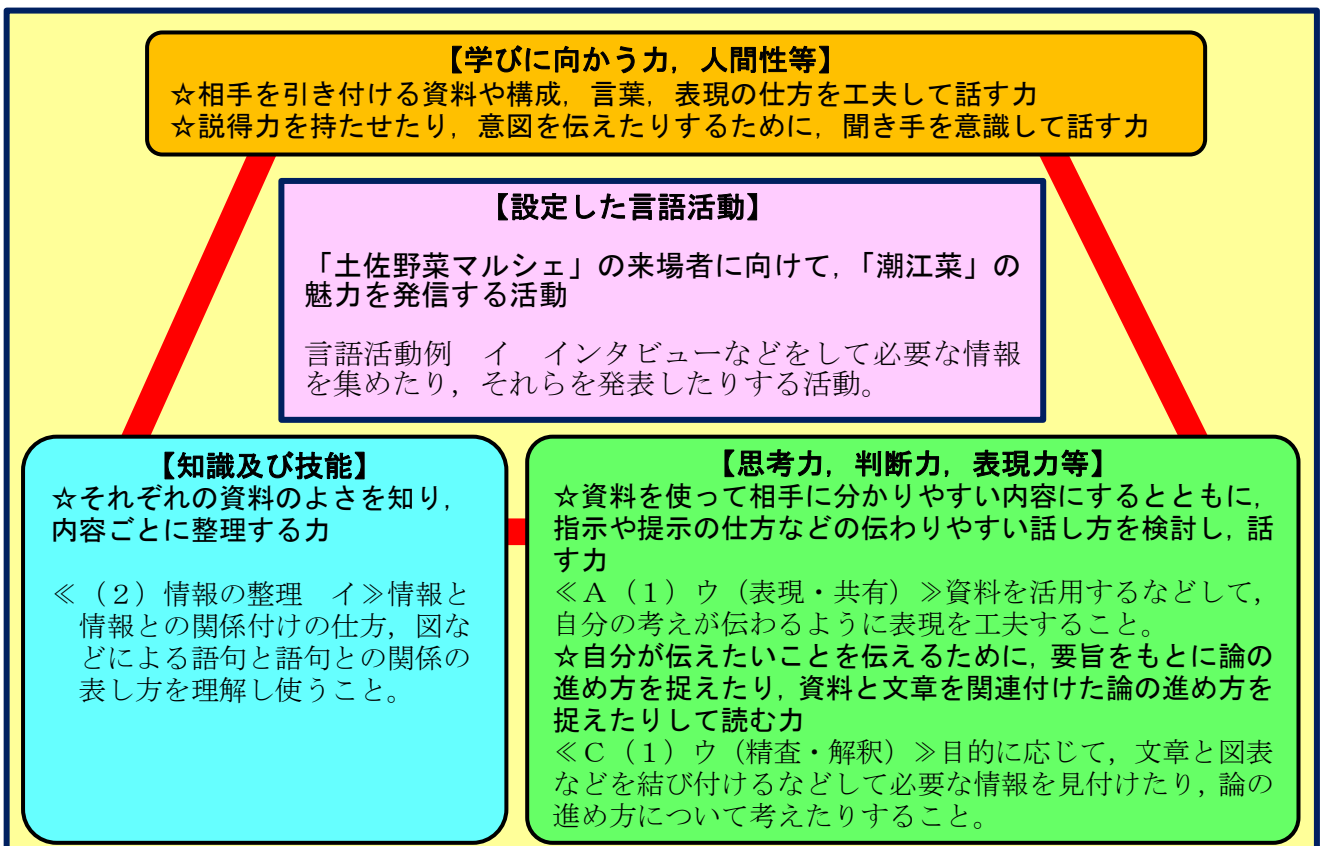
【2019年度 研究テーマ】 学びに熱中する子どもの育成 —「見方・考え方」を働かせて、学びを深める国語科授業づくり—

- 1 単元名 「潮江菜」ひろめ隊 ～「潮江菜」の魅力を発信しよう～
教材名 和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる（東京書籍 5年）

2 単元の系統性 A 話すこと・聞くこと



3 本単元で付けたい【資質・能力】と設定した言語活動



4 単元について

(1) 児童の実態

本校独自の国語アンケートでは、「あなたは自分の考えや思ったことを人に伝えたり、発表したりすることができますか」という設問に対して、肯定的な回答をしている児童は8割程度である。この結果から、自分の思いを伝えることに関して苦手意識はあまりないと思われる。しかし、算数科や社会科などで資料や文章から必要な情報を選択し、関連付けながら相手に伝える力は十分ではない。標準学力調査の結果を見ても、「情報を適切に読み取る力」に関わる項目は課題がある。条件に合った内容を資料から取り出して理由を述べたり、複数の資料を結び付けて考えたりする力を育てたい。

(2) 教材の特性

本教材は、自分の考えを伝えるために有効な資料を作成するという目的のために説明文(教科書教材)を「読む」という複合的な単元である。本教材は、本論が三つの観点(「歴史」「他の文化とのつながり」「支える人」)で構成されており、観点ごとに使われている資料が異なる。自分の考えを伝えるときに、いくつかの観点で話すことや、資料を効果的に用いるとよいことを学習する。この学習をもとに、自分たちの地域の伝統野菜「潮江菜」の魅力を「土佐野菜マルシェ」の来場者に向けて発信する言語活動を設定した。児童は、「潮江菜」について栽培農家の方から話を聞いたり、前年度の活動を見聞きしたりして知っているが、「土佐野菜マルシェ」の来場者で「潮江菜」を知っている人は少ないと思われる。自分たちが伝えたい内容を知らない相手に伝える場合、資料を用いたり、話の構成を考えたりすることが必要になる。さらに、聞き手が自分たちの話の内容を理解しているかどうかを確かめながら話したり、相手に問いかけたりする話し方が必要である。「潮江菜」の魅力を伝えるために、論の進め方を考えたり、話し方を工夫したりすることに適した教材である。

(3) 指導の文脈

本単元では、国語科の時間に教科書教材で学習したことを総合的な学習の時間で地域教材に活かしていく教科等横断的な単元構成を仕組む。

一次では、今までに行った「土佐野菜マルシェ」の様子や6年生や卒業生のプレゼンテーションの様子を見て学習課題を確かめる。その際、今までとプレゼンテーションをする場所や客層が違うため、発信の仕方を工夫しなければならないということに気付かせたい。蔦屋書店来訪者の中には「土佐野菜マルシェ」に来ることが目的ではない人もいたため、聞き手を引きつける話し方や資料の選び方がより大切になるという見通しをもたせる。そのため、教科書教材を活用し、どのように話を進めると効果的かを考えながら読むという解決の見通しをもたせる。総合的な学習の時間では、「潮江菜」のことについて書かれた資料などを整理し、使えそうなものを精選していく。

二次では、「①教科書教材でポイントをおさえる②教科書教材の資料と論の進め方をもとに発表する③「潮江菜」で資料を作ったり、発表できるようにしたりする」という流れを繰り返しながら進めていく。教科書教材から資料の作り方や意図、説得力をもたせるために用いられている筆者の三つの観点、自分の伝えたいこと的主張の仕方を確認し、「潮江菜」でも同じ論の進め方で発表できるかを考えさせる。そして、筆者が資料を用いて、どのように関係付けながら述べているのかを共有させる。教科書教材でおさえたポイントをもとに、総合的な学習の時間で実際に地域教材での資料作りや話すことを練習していくようにする。

三次では、二次での学びを振り返りながら、学習貯金したい内容を精査して共有し、実際に「土佐野菜マルシェ」で活動することを本単元のまとめとしたい。

本時は、これまでに行ってきた資料作りや発表練習をもとに、「潮江菜」の魅力がより伝わる話し方の工夫とは何かを考えさせ、相手によって視線を変えたり、指示の仕方に気を付けたりするとともに相手の反応によって補足の説明をしたり、言葉を言い換えたりすることの必要性について気付くことをねらいとする。はじめに、発表をさせるなかでうまくいかないことについてグループで確認させ、全体で共有させる。その際、タブレット端末を使って自分の話し方を録画し、振り返るとともに、動画を根拠に話し合うことができるようにする。そして、「お客さんの反応に合わせた話し方になっているか」を問い、相手によって話し方を変えなければならないことがあるということをおさえる。さらに、共有されたポイントを使うとどうなるのかを試し、録画させる。それをはじめの自分の動画と見比べたり、友だちの動画と見比べたりしながら効果を確かめさせる。

5 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標 相手に伝わりやすい構成で見せ方・話し方を工夫して話すことができる。

(2) 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】 《話すこと・聞くこと》《読むこと》	【主体的に学習に取り組む態度】
<p>○自分の考えをより明確にしたり、思考をまとめたりするために、三つの観点に合った資料を使っている。</p> <p>《(2)情報の整理 イ》</p>	<p>○「話すこと・聞くこと」において、資料を効果的に使い、相手の反応や状況によって説明の仕方を工夫して話している。</p> <p>《A(1)表現、共有 ウ》</p> <p>○「読むこと」において、聞き手に伝わりやすい説明にすることで、論の進め方や、説明と資料を結び付ける言葉を考えている。</p> <p>《C(1)精査・解釈 ウ》</p>	<p>○粘り強く試して、相手を引き付ける内容や言葉、表現の仕方の工夫を考え、学習の見通しをもって、「潮江菜」の魅力を伝えようとしている。</p>

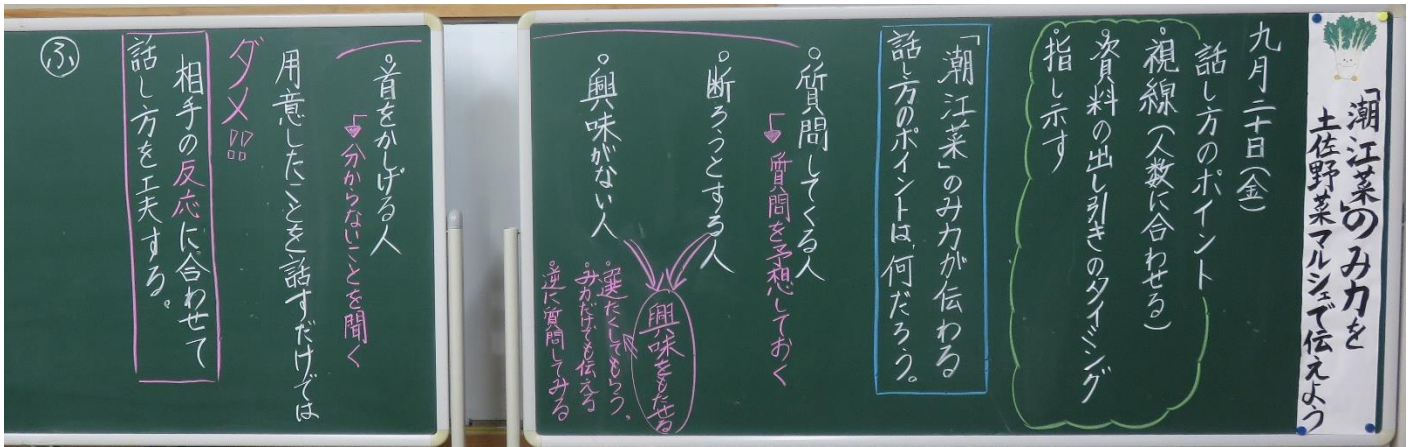
(3) 単元の学習内容と評価規準 (全8時間)

設定した言語活動 「土佐野菜マルシェ」の来場者に向けて、「潮江菜」の魅力を発信する活動	次 学習内容 児：見方・考え方を成長させる子どもの気付き	知・技	思 判 表	態 度	評価規準 【評価方法】	総合的な学習の時間での活動	付 け たい 力 自 分 の 考 え を 伝 え る た め に 、 資 料 を 活 用 し た り 、 視 線 や 指 示 の 仕 方 な ど の 表 現 の 工 夫 を し た り し て 話 す か	
一 次	第1時 ・発信するために資料の使い方や説明の仕方を学習しなければならないという見通しをもつ。 児：「潮江菜」のみ力を伝えるためには、今年の「土佐野菜マルシェ」に合った資料を使い、説明の仕方を考えるとよさそうだ。		○		○自分たちで発信していくために、何が必要なのかという学習の見通しを立てて、資料を集めて適切な資料を選ばなければならないことを理解している。 【発言・ノート】《A (1)ウ》	総合第1時 (スタート!) ・「土佐野菜マルシェ」で「潮江菜」の魅力を発信するというゴールイメージをもち、資料の収集をする。		
二 次	第2時 ・結論と本論の結び付きを考える。 児：筆者が結論に書いていることと事例に用いる三つの観点は、自分たちがひろめ隊として「潮江菜」を発信するときにも使えそうだ。		○		○聞き手に伝わりやすい説明にするため、論の進め方や、説明と資料を結び付ける言葉を考えている。 【発言・ノート】《C (1)ウ》	総合第2時 ・「潮江菜」について自分たちの主張と資料との関連付けを考える。		
二 次	第3時 ・教材文から聞き手に伝わりやすい論の進め方を考える。 児：どんな資料があると分かりやすいか分かったし、三つの観点を使って話を進めると、伝えたいことの説得力を高めるんだね。	○			○自分の考えをより明確にしたり、思考をまとめたりするために、三つの観点に合った資料を使っている。 【発言・ノート】《知・技 (2)イ》	総合第3時 ・自分たちの資料を三つの観点に合うように分類する。		
二 次	第4時 ・観点①「歴史」から年表の示し方のポイントについて考える。 児：年表は、絵や写真を入れて一目で歴史の流れが分かるようにしよう。軽重をつけて説明することも大事だね。		○		○筆者の述べ方と年表とを結び付け、年表のよさとその説明の仕方を工夫して話している。 【発言・ノート】《A (1)ウ》	総合第4時 ・「潮江菜」の歴史が分かる資料と説明を作って練習する。		
二 次	第5時 ・観点②「他の文化との関わり」の示し方のポイントについて考える。 児：写真を資料として使う時は、行事などとのつながりが分かるものや、言葉だけではイメージしづらい事柄などが示されているものを選ぼう。		○		○他の文化との関わりを表すための資料を選択し、意図に応じた説明の仕方を工夫して話している。 【発言・ノート】《A (1)ウ》	総合第5時 ・「潮江菜」と他の文化との関わりが分かる資料と説明を作って練習する。		
二 次	第6時 ・観点③「支える人」の示し方のポイントについて考える。 児：作業や様子が分かる写真を入れると、「潮江菜」を育てる苦労や広めるための努力がイメージしやすいね。		○		○その文化を支える人を表すための写真選びのポイントと、説明の仕方を工夫して話している。 【発言・ノート】《A (1)ウ》	総合第6時 ・「潮江菜」を支える人についての資料と説明を作って練習する。		
三 次	第7時 (本時) ・「潮江菜」の魅力をより伝わりやすくするために、相手・状況に合わせた説明の仕方を考える。 児：指し示したり、視線をお客さんに向けたりすることやお客さんの反応を見て話す時間や内容を考えないといけないな。		○		○資料の提示の仕方や視線・指示、相手の反応に合わせた話し方(補足説明・時間)などを工夫して話している。 【発言・ノート】《A (1)ウ》	総合第7時 ・発表の練習をする。 ・足りなかった質問の答えや資料を準備する。		
三 次	第8時 ・学習を振り返る。 児：お客さんの反応を考えたり、お客さんの興味を引き付ける資料の作り方や使い方は、学校生活でも生かせそうだ。			○	○自分が成長できたことについて学習貯金にまとめている。 【学習貯金】《主体的に取り組む態度》	総合第8時 ・「土佐野菜マルシェ」で「潮江菜」の魅力を発信する。		
○目的や相手、状況を踏まえた話し方で、発言・発表を行うこと。		【単元のゴールの活用】			○意図をもって資料を選択し、自分たちの主張の説得力を高めること。			

「土佐野菜マルシェ」で「潮江菜」の魅力を発信しよう!

6 本時の学習

- (1) 目標 相手や状況に合った説明の仕方について考えることができる。
- (2) 問うべき問い 「お客さんの反応に合わせた話し方になっているかな」
- (3) 評価規準 資料の提示の仕方や視線・指示、相手の反応に合わせた話し方（補足説明・要約・時間の長さ）などを工夫して話している。【発言・ノート】



学習活動

★評価規準

1 前時の振り返りをする。

- 前時の学習を振り返る。

2 課題をつかむ。

- 既習のポイントを使って今までに準備してきた発表を試してみる。

- 視線は、聞いてくれている人に向ける。
- 資料を出しっぱなしにしない。(出し引きのタイミング)
- 話している内容に合わせて指し示す。

- 最初に共有されていることをもとに、「土佐野菜マルシェ」に来てくれた人を想定して、参会の先生に話す。
- 参会の先生に試してみたことで感じたことをもとに共有する。

「潮江菜のみ力」がより伝わる説明のポイントは何だろう。

3 課題を解決する①。

- 共有されたうまくいかないことをグループで話し合う。
- お互いに見合い、アドバイスし合わせるようにする。
- 魅力が伝わるように話すためのポイントを全体で共有する。

- 聞いてくれる人の様子を確かめながら話す。
(うなずき・表情)
- 相手の興味の度合いに合わせて話す時間の長さや資料の示し方を調節する。

4 問うべき問い 「お客さんの反応に合わせた話し方になっているかな」

4 課題を解決する②。

- 3で共有されたことをもとに、もう一度参会の先生に魅力を伝える。

★資料の提示の仕方や視線・指示、相手に合わせた話し方(補足説明・要約・時間)などを工夫している。【発言・ノート】

5 振り返りをする。

- 今日の学びを発表させながら、できるようになったこと・もっと高めたいことなどを振り返る。

◎本時の学習で国語的な見方・考え方を働かせている姿とは？

児童が、「潮江菜」の魅力がより伝わる説明を考えるうえで、相手に合った資料の見せ方や話し方に着眼すること【見方】で、どのような資料の出し方や話し方が相手の分かりやすさを高めるのかを考えたり、友達と相談したりしている【考え方】姿である。